

acted

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-78332

(43) 公開日 平成9年(1997)3月25日

(51) Int.Cl.⁹
A 4 2 B 3/30

識別記号 庁内整理番号

F I
A 4 2 B 3/30

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数3 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平7-276125

(22) 出願日 平成7年(1995)9月18日

(71) 出願人 593205989

谷 文雄

大阪府吹田市山田西3丁目21番B107

(72) 発明者 谷 文雄

大阪府吹田市山田西3丁目21番B107

(54) 【発明の名称】 マイクとスピーカの付いたヘルメット

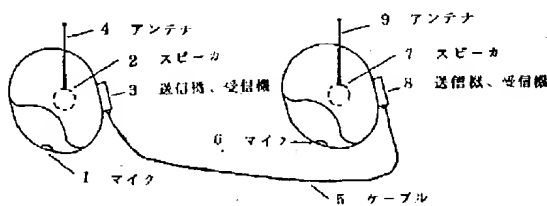
(57) 【要約】

【目的】 自動二輪車でヘルメットを使用時、前後の二人、又近くのヘルメット装着者同士で会話ができ、又ヘルメットを装着しているとラジオ、テープレコーダで音楽等を楽しむ為の装置である。

【構成】 ヘルメットにマイク(1)、(6)スピーカ(2)、(7)を取り付け、二つのヘルメットの送信受信機(3)、(8)をケーブル(5)で直接接続又、アンテナ(4)、(9)で電波を交信したヘルメット。

ヘルメットA側

ヘルメットB側



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ヘルメットにマイク(1)、(6)スピーカー(2)、(7)を取り付けた、マイクとスピーカの付いたヘルメット。

【請求項2】 ケーブル(5)はマグネットで固定し、二つのヘルメットの送信受信機(3)、(8)を直接接続した、請求項1のマイクとスピーカの付いたヘルメット。

【請求項3】 ヘルメットにアンテナ(4)、(9)送信受信機(3)、(8)を取り付けた、請求項1のマイクとスピーカの付いたヘルメット。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、自動二輪車でヘルメットを使用時、前後の二人、又近くヘルメット装着者同士で会話ができ、又ヘルメットを装着しているとラジオ、テープレコーダで音楽等を楽しむ為の装置である。

【0002】

【従来の技術】従来、自動二輪車の場合走行中に運転者と同乗者が全く会話が出来ず、又近くを走行中の友人とも会話ができない。又、一人で走行中はラジオも聞けずに黙々と走行しなければならない。その為に心に余裕を持てず、事故につながる場合もないとは言えない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、その要望に応えるためにされたもので、これを図面について説明すれば、図1で、ヘルメットA側の音声はマイク1で音声信号に変えられ送信受信機3によってケーブル5、又アンテナ4でヘルメットB側へ送られる。ヘルメットB側送信受信機8によって音声信号をスピーカ7へ送りスピーカ7で、もとの音声に変えられ聞こえるようになる。

【0004】これでは一方向なのでヘルメットB側の音声もマイク6で音声信号に変えられ送信受信機8によってケーブル5、又アンテナ4でヘルメットA側へ送られる。ヘルメットA側送信受信機3によって音声信号をスピーカ2へ送りスピーカ2で、もとの音声に変えられ聞こえるようになる。

【0005】

【課題を解決するための手段】このヘルメットを装着していると、運転者と同乗者が走行中でも安全に、会話が出来、又一人で走行中でも音楽等を楽しめ心に余裕を持って走行出来る為の装置である。運転者と同乗者ばかりでなく、他の自動二輪車のヘルメット装着者同士での会話も同時に出来る機能も持っている。上記目的を達成す

るために、本発明におけるヘルメットの装置は、安全に目的を達成出来る様に構成されている。

【0006】

【作用】走行中でも安全に会話が出来る、又、音楽等を楽しめたり今までと全く違った乗り心地を満足することが出来る。

【0007】

【実施例】実施例について図面を参照して説明する。図1で、ヘルメットA側の音声はマイク1で音声信号に変えられ送信受信機3によってケーブル5、又アンテナ4でヘルメットB側へ送られる。ヘルメットB側送信受信機8によって音声信号をスピーカ7へ送りスピーカ7で、もとの音声に変えられ聞こえるようになる。

【0008】又、ヘルメットB側の音声もマイク6で音声信号に変えられ送信受信機8によってケーブル5、又アンテナ4でヘルメットA側へ送られる。ヘルメットA側送信受信機3によって音声信号をスピーカ2へ送りスピーカ2で、もとの音声に変えられ聞こえるようになる。

【0009】

【発明の効果】本発明は、上述のとおり構成されているので、次に記載する効果を奏する。

【0010】請求項1のヘルメットにおいては、運転者と同乗者が走行中でも安全に、会話が出来る為の装置である。運転者と同乗者ばかりでなく、他の自動二輪車のヘルメット装着者同士での会話も同時に出来る機能も持っている。

【0011】請求項2のヘルメットにおいては、ケーブルによってA側とB側を直接、接続でき、ケーブルは、マグネット等で固定し簡単且つ迅速に着脱できる構造になっている。

【0012】請求項3のヘルメットにおいては、ラジオ、テープレコーダの音声も伝達され一人で走行中でも音楽等を楽しめ、心に余裕を持って安全に走行出来る様に構成されている。

【図面の簡単な説明】

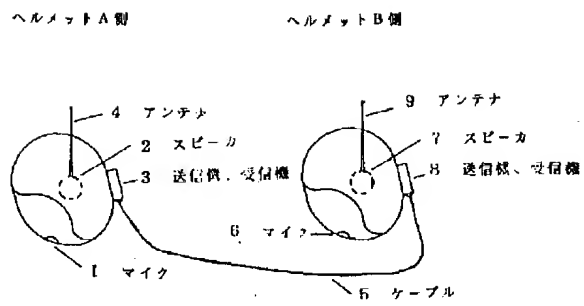
【図1】全体の斜視図である。

【図2】全体の系統図である。

【符号の説明】

1	マイク	2	スピーカ	3	送信機、受信機
4	アンテナ	5	ケーブル	6	マイク
7	スピーカ	8	送信機、受信機	9	アンテナ

【図1】



【図2】

